

令和2年度 上田市教育行政に係る事務の点検及び評価報告書

上田市教育行政評価懇話会

- 第1回 令和3年7月2日(金) 午後1時30分～午後3時30分
- 第2回 令和3年7月7日(水) 午後1時30分～午後3時30分
- 第3回 令和3年8月4日(水) 午後1時30分～午後3時30分

上田市教育委員会

目 次

I 趣旨		1
II 上田市教育行政評価懇話会		
III 評価の方法		2
IV 評価の結果及び懇話会の提言内容等		
1 上田市教育支援プランの推進		
① 学力の定着・向上	学校教育課	3
② いじめ・不登校など悩みを抱える児童生徒への支援	学校教育課	4
③ 教員のICT活用指導力の向上	学校教育課	5
④ 放課後児童対策の充実	学校教育課	6
⑤ 教員の働き方改革の推進	学校教育課	7
⑥ 学校給食施設の計画的な整備	教育総務課	8
⑦ 小中学校のあり方の検討	教育総務課	9
2 安全・安心な教育環境の整備		
① 第五中学校改築事業(配置計画・基本設計)	教育施設整備室	10
② 上田市学校施設長寿命化計画[個別施設計画]の策定	教育施設整備室	11
③ 学校施設の適正な営繕の実施	教育施設整備室	12
3 文化遺産の保存・継承・活用		
① 「上田市文化財保存活用地域計画」の策定に向けた取組	生涯学習・文化財課	13
② 文化財の保存と活用	生涯学習・文化財課	14
③ 史跡上田城跡整備事業の推進	生涯学習・文化財課	15
④ 郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出	生涯学習・文化財課 博物館	16
4 生涯学習の推進と学習環境の整備		
① 上田自由大学運動等の顕彰による生涯学習推進	生涯学習・文化財課	17
② 地域とともにある学校づくりの充実	生涯学習・文化財課 学校教育課	18
③ 人権同和教育・啓発の推進	生涯学習・文化財課	19
④ 青少年の健やかな成長を支援する取組の充実	生涯学習・文化財課	20
⑤ 公民館事業の充実	中央公民館 生涯学習・文化財課	21
⑥ 図書館サービスの充実	上田図書館 生涯学習・文化財課	22
5 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備		
① 第二次上田市スポーツ推進計画の策定	スポーツ推進課	23
② 上田市スポーツ施設整備計画に基づく施設整備の推進	スポーツ推進課	24
③ 生涯スポーツ振興、競技力向上、人材育成とスポーツを支える地域づくり	スポーツ推進課	25

I 趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、各教育委員会は効果的な教育行政の推進を図り、住民への説明責任を果たしていくため、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を毎年行うことになりました。

そのため、法改正の趣旨に鑑み、平成20年度から、目標管理制度において設定した教育委員会の重点事業について、自己点検及び自己評価を行い、上田市教育行政評価懇話会において、有識者から提言をいただいています。これらの評価の結果や懇話会における委員からの意見は、今後の教育に関する事業の改善に役立てていきます。

II 上田市教育行政評価懇話会

令和2年度重点事業の評価について、有識者からの意見を聞くため、本年度は、7月2日、7月7日、8月4日の3回にわたって上田市教育行政評価懇話会を開催しました。

なお、委員には、上田市の教育に携わった経験があり、専門的な観点からの意見を期待できる次の7人に就任を依頼しました。

(敬称略)

氏名	略歴	備考
安達 永眞	小県上田教育会幹事、元南小学校長	座長
田畑 和秀	長野保護観察所上田地区保護司、元神科小学校長	副座長
小宮山 千佐	上田市博物館協議会委員、民生児童委員	
町田 龍一郎	筑波大学生命環境系特命教授、 上田市文化財保護審議会委員	
矢島 孝浩	上田市スポーツ推進委員副会長、 上小スポーツ推進委員協議会監事	
山浦 美幸	上田中央地域協議会委員、元上田市社会教育委員	
山崎 順子	西部公民館運営審議会会長、 上田市社会教育委員、元上田市教育委員	

Ⅲ 評価の方法

令和2年度重点事業の年度末における目標の達成状況について、AからDまでの4段階による評価を行いました。

【総合評価】

ランク	内 容
A	目標を上回る成果があった。
B	目標どおりの成果があった。
C	目標未達成の部分があった。
D	全ての目標が未達成であった。

Ⅳ 評価の結果及び懇話会の提言内容等

令和2年度重点事業の評価の結果及びこれに対する懇話会の提言内容等は、事業評価シートに記載のとおりです。

令和2年度 事業評価シート

1-①

事業名	学力の定着・向上	担当課	学校教育課
当初目標	(1) 全ての児童生徒にとって「わかる」授業につながる授業改善を行います。 (2) MIMの実践による「読み」の向上を図ります。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	長野大学社会福祉学部と塩田地区4小中学校がユニバーサルデザイン化の視点を取り入れた授業改善に取り組み、公開授業を実施(34回)	0	
	上記成果を全小中学校に発信(13回)	0	
	「授業を語る会」の開催(1回)	0	
	MIM指導研修会、模擬授業等の学校訪問を実施(85回)	0	
MIMモデル校実践報告会の開催(1回)	0		
目標の達成状況	(1) 「具体的、視覚的、肯定的」の3つを視点として授業改善に取り組み、全ての児童生徒にとって分かりやすく学習しやすい環境を整え、落ち着いた授業が展開できました。また、教員も3視点を意識した授業を行うことで、授業力の向上につながりました。 授業を語る会においては、「教師力を高めるためには」について語り合い、さまざまな考え方や価値観に触れ、それぞれの教員の授業改善への意識が高まりました。 (2) 長野県が実施する「市町村の特色ある教育を支援する教員配置事業」により、MIMに特化した教員を1人配置しました。 模擬授業等、モデル校7校を中心に全市的に取り組みました。児童が楽しみながらMIMの学習を行い、「読み」の能力、さらに学習意欲の向上につながっています。		
総合評価	B		
今後の課題等	(1) 授業のユニバーサルデザイン化の取組を、塩田地区から市内各校に広げていく必要があります。また、教員同士で課題を話し合う機会を設けるなど、教員の指導力の向上や授業の改善を支援し、学力の定着と向上を図る必要があります。 (2) 定期的にMIMを実践し、評価・分析を通じて必要な支援等の学習計画を立て、「読み」の向上に継続的に取り組む必要があります。また、学習につまずいた児童の個別の指導時間の確保や校内での協力体制の構築も必要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	① 塩田地区4校におけるユニバーサルデザイン化の取組において、授業改善の成果が現れていることを評価します。 具体的、視覚的、肯定的支援の3つの視点は、障がいのある児童生徒にとっても大切な視点だと考えます。 ICT機器を活用する際の支援等、授業改善につながる細やかな支援が、今後も行われることを望みます。 ② 「読み」の向上に向け、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導に、全市的に工夫をしながら取り組んでいることを評価します。これまでの取組から培った財産が、今後、教員に広く活用されることを期待します。	
	意見に対する考え方	① これまでのユニバーサルデザイン化の取組に加え、ICT機器も有効に活用しながら、児童生徒一人一人の能力や特性に応じた学びを深める授業を推進していきます。 ② 引き続き、各校でMIMを活用し、学力の基礎となる「読み」の向上を図っていきます。また、教職員ポータルサイトへの教材の掲載等、取組が定着するよう支援していきます。	
今後の方針等	(1) 公開授業や成果を発信しながら、ユニバーサルデザイン化の視点を活かした授業改善を広めるとともに、「わかる、できる」と実感できる授業を目指し、学力の定着と向上を図ります。 (2) 「読み」の向上に加え、学習意欲の向上にもつながるなどの成果も見られることから、引き続き全市的に取り組み、より効果的な学習が進められるよう支援していきます。		

令和2年度 事業評価シート

1-②

事業名	いじめ・不登校など悩みを抱える児童生徒への支援	担当課	学校教育課
当初目標	(1)長野県の未成年の自殺死亡率が全国と比較して高水準にあることから、学校においても「SOSの出し方に関する教育」を推進します。 (2)さまざまな悩みを抱える児童生徒へきめ細かな支援を行うため、相談体制を整備し支援の強化に取り組みます。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	8中学校で「SOSの出し方に関する教育」を実施	0	
	いじめ問題対策連絡協議会の開催（1回）	31	
	小中学校への訪問、支援	0	
	教育相談所が対応した相談件数 3,303件	0	
	不登校対策指導委員会の開催（2回）	0	
	心の教室相談員、特別支援教育支援員研修会の開催	0	
目標の達成状況	(1)道徳の授業や学級活動の時間を活用し、8中学校で実施しました。実施した学校では、「一人で悩みを抱え込むのではなく担任や信頼できる大人に打ち明け相談したい」や「これからは、悩みごとがあったら誰かに相談してみよう」など、生徒が自分事として考え、相談しようとする意識の変化が見られました。 (2)教育相談所と特別支援教育担当による合同学校訪問を全校に実施しました。発達障がいや特性を抱える児童生徒も含め、状況を的確に把握し、学校や保護者と連携しながら、不適応・不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努めました。 教育相談所が対応した相談件数は、前年度の約2倍となる3,303件に上り、児童生徒や保護者の情緒の安定や、登校につながる成果が見られました。		
総合評価		B	
今後の課題等	(1)担任教諭、保健体育教諭、養護教諭等が、日常的に教科教育の場面で繰り返し行うことが必要です。また、全校がSOSの出し方に関する教育に取り組む必要があります。 (2)悩みを抱える児童生徒を取り巻く環境も複雑化していることから、校内での組織的な支援、相談機関との連携強化により、状況に応じた寄り添った支援をしていく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	さまざまな原因による悩みを抱える児童生徒、保護者が増える中、相談しやすい環境が整備されていることを評価します。状況を的確に把握し、学校と関係機関が連携し、相談者に寄り添った支援につながることを期待します。	
	意見に対する考え	学校においては、「ちょっとした変化を見逃さない、ちょっとした異変にも気づく目配り」を大切にしながら、学校長をはじめ、教員やスクールカウンセラー等、学校全体で、児童生徒に寄り添った支援を行っていきます。また、相談しやすい雰囲気づくり、居場所づくり等の校内の環境づくりにも取り組んでいきます。 教育相談所においては、特別支援教育も含めた教育支援センターとして、組織的に支援を行っていきます。今後も、児童生徒、保護者、学校からの相談に対し、それぞれの状況に適した支援を行っていきます。	
今後の方針等	(1)実施する時間の確保や継続的な学びによって、生徒の意識の変化を促し相談につなげていくことができるよう取組を推進していきます。 (2)早期把握、適切な早期支援をするため、スクリーニング会議を定期的に行う必要があります。また、関係機関の連携を強化し、状況に応じたきめ細かな支援を行います。		

令和2年度 事業評価シート

1-③

事業名	教員のICT活用指導力の向上	担当課	学校教育課
当初目標	<p>新学習指導要領では、学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実が求められています。また、情報活用能力の育成として、情報の集め方や調べ方、整理・分析の仕方、まとめ方や表現の仕方等を身に付け、情報手段の操作ができるようになることが求められています。</p> <p>(1) 菅平小・中学校に児童生徒用のタブレットPCを整備 (2) タブレットPCの活用方法、運用方法の調査研究</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	菅平小中学校端末35台、校内無線Wifi整備	340	
	デジタル教科書整備（小：算数2年）	1,880	
	デジタル教科書整備（中：数学、国語、地理、歴史、公民、理科、英語）	13,141	
	GIGAスクール構想校内ネットワーク電源整備	581,790	
	GIGAスクール構想1人1台端末整備	3,754	
	指導主事による各校への支援	0	
	ICT支援員による各校への支援	6,677	
目標の達成状況	<p>菅平小中学校の無線Wifi環境の整備は9月末に完了しましたが、機器(Chromebook)については品薄の状態が続き1月末に整備が完了しました。</p> <p>機器の導入が1月になり、教員に対する操作研修期間を十分に確保できませんでした。このことから総合評価はCとしました。</p> <p>その中で、短時間ですが機器を動かしたり、授業に使用することができました。機器を使用した効果的な授業の研究や管理運営等に関する調査を令和3年度以降も引き続き実施します。</p> <p>GIGAスクール構想によるネットワークと端末整備は3月中に終了しましたので、次年度から随時運用を開始します。</p> <p>指導主事によるChromebookの事前操作研修や、プログラミングの授業等を一緒に行うことで、ICT機器や教材を授業の中でどのように取り入れればよいかイメージを持つことができ、その後の授業実践において前向きに取り組めるようになりました。</p>		

総合評価	C
今後の課題等	<p>国のGIGAスクール構想に基づき、全ての児童生徒に1人1台の端末機器を整備しましたので、今後は機器の活用方法を支援していく必要があります。</p> <p>また、教員への更なる情報機器の活用支援が求められるので、ICT支援員の増員等、支援体制の強化が必要です。</p>
上田市教育行政評価懇話会	<p>委員からの意見</p> <p>①教員が情報機器を授業で有効に活用できるよう、また教員の負担軽減となるよう、ICT支援員の増員等による支援体制の強化が図られることを望みます。</p> <p>②安定した校内ネットワークを維持するため、適宜必要な整備が行われることを望みます。</p>
今後の方針等	<p>①ICT支援員を増員し、児童生徒の一人一台端末が授業の中で最大限活用できるよう研修等を行うとともに、教員の負担軽減につながるよう支援体制を強化していきます。</p> <p>②今後、各種アプリやドリルソフトの利用等、端末機器の更なる活用が進むことが想定されるため、学校独自でインターネットに接続する形へ再構築するなど、適宜整備を進めていきます。</p>
今後の方針等	<p>令和3年度からICT支援員を9人に増員し、教員への支援体制の充実を図ります。また、情報教育主任会（各校から教員1人が出席）において、ICT機器を使用した授業の事例を紹介するなど、ソフト面の体制づくりに努めていきます。</p>

令和2年度 事業評価シート

1-④

事業名	放課後児童対策の充実	担当課	学校教育課
当初目標	児童の安全確保及び子育て支援を推進するため、留守家庭対策を担う放課後児童クラブの環境整備に取り組みます。 (1) 特定天井耐震化事業の実施 神科児童センター天井改修工事 (2) 適正な利用児童数を維持するための施設整備		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1) 特定天井耐震化事業 神科児童センター天井改修工事	6,908	
	(2) 施設整備等による定員増	4,849	
	(3) 感染症予防のための整備（自動水栓設置、洗面所増設、網戸設置等）	5,419	
目標の達成状況	(1) 神科児童センター天井改修工事 令和2年9月1日竣工 特定天井の耐震化により、安全な施設に改修しました。 (2) 安全・安心な保育に向け、利用児童の増加している施設の定員を増やしました。 活動スペースの拡充により6館154人増 放課後児童支援員の確保により1館7人増 (3) 児童が安心して過ごせるよう、感染症予防のための施設整備をしました。 自動水栓設置 23館、洗面所増設 2館、外水道設置 1館、網戸設置 4館		
総合評価	B		
今後の課題等	利用を希望する児童数に対応できる施設整備（場所・規模）を検討する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	施設の耐震化や定員増を図る整備に加え、新型コロナウイルス感染予防のための整備に素早く取り組んだことを評価します。	
	意見に対する考え方	留守家庭対策を担う放課後児童クラブの環境整備は、児童の安全確保及び子育て支援を推進する上で必要性が高いと捉えており、ハード、ソフト両面から、今後も継続してその充実に向け取り組んでいきます。	
今後の方針等	小学校等関係機関と連携し、余裕教室を含め、施設の設置場所について検討します。		

令和2年度 事業評価シート

1-⑤

事業名	教員の働き方改革の推進	担当課	学校教育課
当初目標	<p>教員の長時間勤務を改善するため、教員が担うべき業務を明確にし各校における教員の平均時間外勤務時間が月45時間以下となることを目指します。 (令和元年12月時点 45時間未満：13校、45時間超：23校)</p> <p>(1) 教員の勤務時間の把握と適正化 (2) 統合型校務支援システムの導入（中学校）</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	部活動指導員の任用（7中学校で8人）	2,296	
	部活動の方針の徹底	0	
	月ごとの時間外勤務時間の調査	0	
	教育委員会主催の研修等の見直し	0	
	教育委員会独自の調査の見直し	0	
	統合型校務支援システムの導入（県推進の共同調達。中学校11校、小学校1校）	5,220	
目標の達成状況	<p>前年度と比較して、平均時間外勤務時間が月45時間以下の学校は2校増となりましたが、全校が45時間以下にはならず目標は達成できませんでした。このことから総合評価はCとしました。 (令和2年12月時点 45時間未満：15校、45時間超：21校)</p> <p>部活動指導員を昨年の5人から8人に増員でき、また部活動の方針の徹底により、中学校教員の負担減につながりました。 統合型校務支援システムを中学校11校、小学校1校に導入し、業務の効率化を進めました。</p>		
総合評価	C		
今後の課題等	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日々の健康観察や消毒等の新たな業務が増え、教員の負担となっています。スクールサポートスタッフやコミュニティスクールの制度を活用し、授業準備等にかかる時間や児童生徒に接する時間の確保が必要です。 統合型校務支援システムの導入により、校務の効率化を図っていく必要があります。 勤務時間を意識した働き方を進める必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会 委員からの意見 意見に対する考え方	<p>部活動指導員の任用、部活動の方針の徹底により、教員の負担減につながっていることを評価します。教員が担うべき業務の整理、勤務時間を意識した働き方の推進が更に図られ、教員の授業準備等にかかる時間が確保されることを望みます。</p>		
	<p>引き続き、部活動指導員の任用を進めるとともに、統合型校務支援システム等を活用しながら、教員の負担となる業務を軽減し、授業準備等にかかる時間が確保できるよう、更なる働きかけをしていきます。</p>		
今後の方針等	<p>スクールサポートスタッフやコミュニティスクールの仕組みを活用して業務の分業化、協業化を推進します。 統合型校務支援システムを、令和3年度は全小学校に導入し、業務の効率化を図ります。 小中学校で留守番電話を利用するなど、勤務時間を意識した働き方を進めていきます。</p>		

令和2年度 事業評価シート

1-⑥

事業名	学校給食施設の計画的な整備	担当課	教育総務課
当初目標	(1) 老朽化が進む第二学校給食センターの改築に向けて、設計者及び設計に協力する厨房機器業者を選定し、基本設計に着手します。 (2) 第二学校給食センター改築事業用地について、地権者との交渉及び必要な手続きを進め、年度内の取得を目指します。 (3) 学校給食における食物アレルギー対応について、安全な取組を行うために検討組織を設置し、市としての基本方針を策定します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1) 新第二学校給食センターの基本設計（一部を翌年度に繰越）	6,550	
	(2) 新第二学校給食センター改築事業用地の不動産鑑定	6,919	
	新第二学校給食センター改築事業用地の取得	131,200	
(3) 学校給食における食物アレルギー対応の基本方針及び対応マニュアルの策定	23		
目標の達成状況	(1) 第二学校給食センターの設計者及び設計に協力する厨房機器業者をプロポーザル方式で選定し、基本設計に着手しましたが、平面図の確定に至らなかったため、一部を翌年度に繰り越しました。 (2) 第二学校給食センターの改築事業用地を取得するために土地収用法の事業認定等の必要な手続きを進めるとともに、地権者との用地交渉を進め、用地取得を完了しました。 (3) 医師、学校給食関係者等で構成する食物アレルギー対応検討委員会を設置し、食物アレルギー対応の基本方針及び対応マニュアルを策定しました。		
総合評価	B		
今後の課題等	第二学校給食センターでは、施設の老朽化が進み、施設・設備の修繕が多発しており、改築事業を着実に進める必要があります。 昭和63年築で同じく老朽化が進む第一学校給食センターの改築については、第二学校給食センターの移転改築後に着手する計画であるため、より長期的な視点での対策が必要になります。 安全な食物アレルギー対応を実施するために、策定した基本方針及び対応マニュアルについて、学校の教職員、調理場職員に周知を図り、組織的に取り組む必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	① 老朽化した第二学校給食センターの改築事業が、着実に進むことを望みます。 ② 学校給食における食物アレルギー対応が安全な取組となるよう、基本方針とマニュアルを策定したことを評価します。基本方針とマニュアルに基づき、食物アレルギー対応が必要な児童生徒を明確にし、適正で安全な給食が提供されることを期待します。	
	意見に対する考え方	① 安全安心な学校給食を安定的に提供するために、老朽化が進む第二学校給食センターの改築は喫緊の課題です。令和5年2学期の施設稼働に向けて、庁内外の関係者と連携し、確実なスケジュール管理のもと、改築事業に取り組んでいきます。 ② 安全な食物アレルギー対応を実施するために、対象者の状況を正確に把握する必要があります。このため食物アレルギー対応の基本方針では、対応を実施する場合に、医師が作成する学校生活管理指導表の提出を必須としています。学校、調理場、保護者との連携を大切にするとともに、食物アレルギー対応の基本方針及び対応マニュアルに基づき、安全性を最優先した取組を進めます。	
今後の方針等	安全安心な学校給食を提供できるように、老朽施設・設備の点検及び修繕を行います。 令和5年度の竣工に向けて第二学校給食センター改築事業を着実に進めるため、関係者で協議を重ね、確実なスケジュール管理のもと、実施設計、造成工事、建設業者選定等を進めます。また、必要に応じて近隣住民へも改築事業計画について情報提供を行います。 策定した食物アレルギー対応に関する基本方針及び対応マニュアルに基づく取組を令和4年度から開始できるよう、校長をはじめとする学校の教職員及び調理場職員へ周知を図ります。 また、新第二学校給食センターにおいても食物アレルギー対応食の提供ができるよう、策定した基本方針及び対応マニュアルに基づき、対応内容の具体化を図ります。		

令和2年度 事業評価シート

1-⑦

事業名	小中学校のあり方の検討	担当課	教育総務課
当初目標	<p>少子化に伴う学校の小規模化、複雑・多様化するといわれる社会の変化、学校施設の老朽化による改築需要の増大等、教育を取り巻く諸課題に対応する必要があります。このため、上田市小中学校のあり方検討委員会において、これからの時代を生きる子どもたちを育むための望ましい学校のあり方について検討し、小中学校のあり方に関する基本方針を策定します。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	上田市小中学校のあり方検討委員会の開催（3回）	84	
	上田市小中学校のあり方に関する基本方針の策定	上記に含む	
	上田市小中学校のあり方に関する基本方針（案）のパブリックコメントの実施	0	
目標の達成状況	<p>上田市小中学校のあり方検討委員会を開催し、前年度に引き続き、①「目指す子ども像」、②「上田市としての特色ある教育」、③幼保小中高大等の「縦の連携」による一貫した育ちの支援、④学校・家庭・地域等の「横の連携」による学校の支援、⑤「学びの環境」としての学校の適正規模・適正配置の推進の5つの主要な検討項目について、議論を重ね、基本方針案としてまとめました。 基本方針案についてパブリックコメント（市民意見募集手続）を実施し、パブリックコメントの意見を踏まえ、基本方針を策定しました。</p>		
総合評価		B	
今後の課題等	<p>学校の小規模化等の教育を取り巻く課題への対応の必要性について、全市的に共通する課題であることを、市民に理解をいただく必要があります。 学校規模の適正化を含む議論であるため、教育委員会と市民が信頼関係のもと、子どもたちの教育の場としての学校について、ともに考える必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①基本方針にまとめられた目指す子ども像は、どれも大切な資質・能力であり、それぞれの力がバランスよく、子どもたちの中に育まれることを望みます。</p> <p>②単に知識を得ることができるということではなく、基本方針にもあるように、一定規模の集団生活を通して、多様な考え方や個性を持つ仲間と学びを深めることができるということが、小中学校における学びの環境として大切だと考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①検討委員会では、望ましい学校のあり方について検討を進める上で、まず目指す子ども像について議論をしました。夢や希望を持つこと、自立する力など、どれも大切な資質・能力ですので、これらが子どもたちの中に育まれるように、また、子どもたちが友達と一緒に楽しい学校生活を送ることができるように、より良い教育環境の実現に向け取り組んでいきます。</p> <p>②子ども同士の学びを通して豊かな人間性を育むことは重要であり、そのためには、一定規模の集団が必要と考えます。今後は、この基本方針の趣旨を保護者や地域住民とも共有し、子どもたちにとってのより良い教育環境について検討していきます。</p>	
今後の方針等	<p>広報紙等を用いて、上田市小中学校のあり方に関する基本方針の周知を図ります。 学校が置かれた状況は地域ごとに異なることから、地域ごとに説明・懇談の場を設けます。保護者や地域住民と十分に課題やビジョンを共有しながら、子どもたちにとって、より良い教育環境を実現するために、今後の学校のあり方について検討を進めます。</p>		

令和2年度 事業評価シート

2-①

事業名	第五中学校改築事業（配置計画・基本設計）	担当課	教育施設整備室
当初目標	第五中学校の校舎及び体育館等について、子どもたちの安全・安心を確保するため、施設の改築を実施する必要があるとあり、教職員、保護者及び地域の代表者等からの意見を聴取しながら、施設の配置計画作成、基本設計を行います。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	第五中学校改築推進委員会の開催（整備計画・配置計画の作成）	0	
	基本設計業務における平面計画等の作成	0	
目標の達成状況	<p>基本設計の初期段階での作成が必要となる施設の配置計画作成については、第五中学校改築推進委員会において、生徒、教職員、保護者、地域住民へのアンケートを行い、出された意見を集約の上、整備計画として、施設の配置、必要な機能等の取りまとめを行いました。</p> <p>整備計画策定に合わせて、市の建築職員による新施設の平面計画等を行い、業務委託が必要となる設備、躯体構造計画を除く業務について、順調に推移しました。</p>		
総合評価		B	
今後の課題等	令和3年度以降、作成した整備計画を基に、詳細な設計業務を進める必要があります。また、設計業務を進める中で、施設に必要な機能を確保しながら、建設費用の抑制や将来の維持管理コストの縮減策等についても検討する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①安全で使いやすく、また維持管理がしやすい施設になることを望みます。</p> <p>②学校と地域の連携のために、地域住民が訪れ、生徒や教職員と一緒に活動ができる空間を設けることが、これからの学校施設にとって大切であると考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①生徒の多様な行動に対する安全性の確保、災害等に対する安全性の確保をするとともに、シンプルで使いやすく、維持管理がしやすい施設になるよう整備を進めていきます。</p> <p>②学校運営や学校の教育活動へ地域住民等が関わり、学校と連携ができるようなスペースは必要と考えています。学校開放事業で地域に開放している体育施設の利用のしやすさや、駐車場の確保等も視野に入れて、整備を進めていきます。</p>	
今後の方針等	今後実施する設備、躯体構造計画業務に合わせ、建設工事にかかるコスト試算等を行い、施設に必要な機能を確保しながら、適正な事業費と施設建設に向けて設計を進めます。		

令和2年度 事業評価シート

2-②

事業名	上田市学校施設長寿命化計画[個別施設計画]の策定	担当課	教育施設整備室
当初目標	今後、多くの学校施設が耐用年数を迎えるに当たり、将来の人口減を見据える中で、計画的な施設整備を進める必要があり、上田市学校施設長寿命化計画を策定します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	学校施設長寿命化計画（案）のパブリックコメントの実施	0	
	学校施設長寿命化計画の策定	0	
目標の達成状況	市の建築職員による施設の外観チェック等を実施しました。計画案のパブリックコメント（市民意見募集手続）を実施しました。その後、庁内での協議を経て、学校施設長寿命化計画を策定しました。		
総合評価		B	
今後の課題等	<p>今後は策定した学校施設長寿命化計画に基づき、計画的に施設の維持管理・改修・改築を進め、子どもたちが安心して安全に過ごせる環境整備を行う必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①子どもたちが安全に学校生活を送ることができるよう、築年数や劣化状況、市の財政状況、今後の児童生徒数の推移等を踏まえた計画的な施設整備が必要だと考えます。</p> <p>②教職員住宅をはじめ、施設の必要性を見極め、限りある財源が有効に活用されることを望みます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①学校施設は、子どもたちが生き生きと学び生活する場であるとともに、地域の生涯学習・スポーツ活動の場でもあり、災害時には避難所としての役割も果たす重要な施設です。学校施設を継続的に維持管理していくために、人口減少・少子高齢化等の社会情勢も見据えながら、コスト削減や予算の平準化を行い、計画的な整備を進めていきます。</p> <p>②施設の必要性や計画的な配置・規模を検討し、限りある財源と財産を有効に活用していきます。</p>	
今後の方針等	学校施設長寿命化計画に基づき、施設の状態を見極める中で、計画的な施設整備に努めます。		

令和2年度 事業評価シート

2-③

事業名	学校施設の適正な営繕の実施	担当課	教育施設整備室
当初目標	各学校からの営繕要望に対し必要な修繕等を行うことにより事故等の発生を未然に防ぐとともに、経費圧縮に努めながら、迅速かつ適切な事業推進を図ります。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	小学校施設修繕 (67件)		24, 194
	小学校施設営繕工事 (58件)		49, 446
	中学校施設修繕 (20件)		7, 399
	中学校施設営繕工事 (13件)		43, 725
目標の達成状況	<p>学校要望に基づく学校施設営繕については、必要性、コスト面からの検討を加え、発注業務については適切かつ迅速に実施することができました。</p> <p>また、修繕工事のコストを削減したことにより、新型コロナウイルス感染症対策として網戸設置工事を必要箇所を実施しました。</p> <p>このほか、プールろ過機の更新等、緊急の対応が必要な箇所についても、補正予算により必要額を確保し対応しました。</p>		
総合評価		B	
今後の課題等	学校施設の多くは老朽化しているため、今後も引き続き効果的かつ適切な営繕に努めていく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	経費削減に努めながら、緊急的な対応も含め各学校からの要望に適切に応え、必要な営繕が着実に実施されたことを評価します。	
	意見に対する考え方	学校からの営繕要望に対し、専門知識を有する職員により、緊急性・必要性を判断し、コスト削減にも努めながら、引き続き、効果的かつ適切な営繕に取り組んでいきます。	
今後の方針等	営繕要望に対し、速やかに施設の状態を確認した上で、計画的に営繕を行います。		

令和2年度 事業評価シート

3-①

事業名	「上田市文化財保存活用地域計画」の策定に向けた取組	担当課	生涯学習・文化財課
当初目標	地域の歴史と文化を次世代に継承していくための、上田市文化財保存活用地域計画の策定に向け、コンサルタント業者と契約し、計画案を作成するとともに、策定委員会を開催し（1回）、計画案を審議します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	文化財保存活用地域計画策定事業	3,290	
	(1) 策定委員会の開催（1回・書面審議）		
	(2) 文化財調査（祇園祭礼）		
	(3) 計画策定支援業務委託		
	(4) 「上田市歴史文化基本構想」武石地域住民説明会の開催		
目標の達成状況	<p>計画案の作成はコンサルタント会社の協力を得て、概ね順調に進みました。</p> <p>計画策定に合わせて、追加の悉皆調査として祇園祭礼（牛頭天王信仰）に関する調査を行いました。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、策定委員会を開催することができず、書面審議を行いました。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大に伴い延期していた上田市歴史文化基本構想の武石地域住民説明会を開催しました。（参加者 20人）</p>		
総合評価	B		
今後の課題等	<p>歴史文化基本構想の策定に伴いパブリックコメント（市民意見募集手続）や住民説明会等で寄せられた意見を検証し、計画に反映させることが必要です。</p> <p>地域に残る文化財を、文化財所有者や地域住民と協働しながら保存・活用していくための取組を盛り込んだ計画にする必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>目標としている期日までに上田市文化財保存活用地域計画が策定され、今後の文化財の保存と活用の推進体制が充実することを期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>計画については、令和4年度の認定申請を目指し、コンサルタントとの協議を重ねるとともに、策定委員会の開催やパブリックコメントの実施により、専門家や市民の意見を聴取し、策定を進めていきます。また、計画の策定後は地元説明会や出前講座の開催等により周知を図り、地域協働で文化財の保存・活用に取り組む環境づくりや地域のアイディアの醸成が促進されるよう努めます。</p>	
今後の方針等	<p>令和4年度の文化庁認定を目標に、令和3年度は引き続き、追加の悉皆調査として祇園祭礼（牛頭天王信仰）の調査をするとともに計画案を作成し、策定委員会での審議や文化庁との協議を経て練り上げ、年度内の計画の策定を目指します。</p>		

令和2年度 事業評価シート

3-②

事業名	文化財の保存と活用	担当課	生涯学習・文化財課
当初目標	地域に残る文化財の保存と活用を進めるために、文化財の指定・登録を推進する（3件以上）とともに、日本遺産への取組、全国山城サミット、文化財de文化祭（2回）の開催を通じて、文化財の価値と魅力の発信に努めます。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1) 国登録有形文化財（建造物） 2件登録 「上田聖ミカエル及諸天使教会堂」（馬場町） 「小泉家住宅店舗兼主屋」（上紺屋町） 1件申請中「佐藤家住宅(三ツ引)」（上塩切）	0	
	(2) 日本遺産事業の有償ガイド育成講座を開催 西内地域で構成文化財の補充調査等を実施	0 0	
	(3) 全国山城サミットの開催	300	
目標の達成状況	<p>国の登録有形文化財（建造物）に2件が登録となり、1件が申請中です。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、文化財de文化祭の開催を見合わせ、また全国山城サミットについてもエクスカッション（山城ガイドツアー）の参加者を県内に限定するなど規模を縮小し、講演会・シンポジウムをオンライン配信とするなど、当初計画した事業で実施できないものがありました。</p> <p>一方で、全国山城サミットにおいて新たに上田ケーブルビジョンと連携し、令和3年度のアフター大会に向けた番組を放送し、さらに登山者向けガイドマップを作成し配布するなど、予定事業に代わる取組もありました。</p> <p>塩田平を中心としたストーリーと構成文化財群が日本遺産に認定されました。日本遺産推進協議会を立ち上げて、各種事業に着手しました。</p>		
総合評価	B		
今後の課題等	文化財de文化祭や全国山城サミット等は、文化財の保存と活用の取組を地域住民とともに進めてきましたが、こうした取組は未だ地域的な偏りが見られることが課題です。今後、取組が市域全体に拡大していくよう取り組んでいく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①文化財の持続的な保存と活用を進めていくには、文化財の所有者の思いを適切に把握することに努めるとともに、地域住民の理解、協力を得ることが大切だと考えます。</p> <p>②地域の文化財の価値や魅力を伝えていくことによって、地域住民や未来を担う子どもたちの中に文化財への関心、誇りが育まれることを期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①文化財の所有者や地域住民との意見交換や情報共有を大切に、「地域の文化財は地域で守る」という気運の醸成に努めていきます。</p> <p>②地域住民や未来を担う子どもたちの中に、郷土の文化財への関心、誇りが育まれるよう、「体験」活動等、魅力発信の方法について研究していきます。</p>	
今後の方針等	日本遺産の構成文化財をはじめ、身近な文化財の価値や魅力を、イベント等を通じて市民に積極的に周知・発信し、地域住民が主体となって貴重な文化財を守り伝えてきたという誇りの自覚につながるよう努め、文化財の保存と活用の取組を官民協働で進めます。		

令和2年度 事業評価シート

3-③

事業名	史跡上田城跡整備事業の推進	担当課	生涯学習・文化財課
当初目標	櫓や武者だまりの復元整備の実現に向けた具体的な取組を進めるため、史跡上田城跡整備専門家会議（1回以上）、専門家会議委員による講演会を開催し、事業推進に当たっての課題の抽出等に取り組みます。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	史跡上田城跡整備専門家会議の開催（書面審議）	300	
	史跡上田城跡保存活用計画で用いる史跡測量図を作成	1,997	
目標の達成状況	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、専門家会議を書面審議により1回開催しました。櫓の復元整備に係る新基準が文化庁から提示されたことに対する評価、今後の具体的な取組等について討議し、意見を徴したいところでしたが、やむを得ず書面審議としたことにより、討議等が十分に行えませんでした。</p> <p>今後の討議の参考となるよう、新たに、史跡上田城跡保存活用計画策定に係る史跡測量図を作成しました。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、専門家会議委員による講演会を開催することができませんでした。</p>		
総合評価	B		
今後の課題等	<p>事業を効率的かつスピード感をもって進めていくために、「史跡上田城跡保存活用計画」及び「史跡上田城跡整備基本計画（第3次）」の策定を早急に進める必要があります。</p> <p>櫓の復元及び武者だまりの整備に資する各種データを蓄積し、専門家会議委員の意見の聴取と取りまとめを行い、事業の実施に向けた文化庁との協議を進める必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①市民の関心も集まる前向きな事業であるため、引き続き事業の推進に努めていくことを望みます。</p> <p>②史跡上田城跡整備事業の見通しが市民にも分かるよう、適宜、情報を発信していくことが必要だと考えます。</p> <p>③新型コロナウイルス感染拡大のため、予定していた取組を進めることができない中、史跡上田城跡保存活用計画で用いる史跡測量図を作成するなど、着手可能なものに新たに取り組んだことを評価します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①史跡上田城跡保存活用計画の策定を進めるなど、旧市民会館の解体及び武者だまりの整備、櫓の復元的整備の実現に向け、スピード感を持って取り組んでいきます。</p> <p>②専門家会議での討議内容や文化庁との協議状況、発掘調査の結果等、事業の進捗に応じて情報を発信していきます。</p> <p>③今後も新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、その時できることを模索し、少しずつでも着実に前進できるよう努めていきます。</p>	
今後の方針等	<p>専門家会議を随時開催し、上田城跡整備事業について専門的かつ具体的な意見をいただき、復元整備事業の着手に備えます。委員の討議の場を設けることが必要であることから、リモートによる開催も考慮しながら、開催準備を進めます。</p> <p>専門家会議での討議内容や文化庁との協議状況、発掘調査の結果等、事業の進捗に応じて情報を発信していきます。</p>		

令和2年度 事業評価シート

3-④

事業名	郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出	担当課	生涯学習・文化財課 博物館
当初目標	<p>市民や子どもたちに郷土に対する愛着や誇りを育んでもらうために、郷土の歴史・文化や先人の業績等を伝える次の事業を実施します。</p> <p>(1) 信州上田ふるさと先人館を開館し、先人紹介パネル常設展の開催 (2) 市立博物館及び信濃国分寺資料館において、企画展（6回以上）、体験教室、講座等（30回以上）の開催 (3) 発掘した文化財等を活用した、関係機関との連携展示</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1) 信州上田ふるさと先人館事業	2,834	
	(2) 市立博物館 企画展3回、講座10回 信濃国分寺資料館 企画展3回、「奈良時代を学ぶ会」5回	1,078 467	
	(3) 全国山城サミットに合わせて関連資料を信濃国分寺資料館で展示	0	
目標の達成状況	<p>(1) 6月29日に上小教育会館の一角を借り上げて開館し、上田ゆかりの先人・偉人51人をパネルで分かりやすく紹介しています。 入館者 484人（6月～3月。2.4人/日）</p> <p>(2) 市立博物館及び信濃国分寺資料館で、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、展覧会及び講座等を開催しました。</p> <p>(3) 信濃国分寺資料館で、山城サミットに合わせて企画展を実施しました。また、日本遺産と別所線全線開通イベントに係る八日堂縁日図の特別公開を実施しました。 令和元年度に発掘したクジラ類化石の展示については、関係機関と協議中です。</p>		
総合評価		B	
今後の課題等	<p>(1) 信州上田ふるさと先人館の入館者増加につながる展示内容の充実や情報発信を行う必要があります。</p> <p>(2) 市立博物館及び信濃国分寺資料館は、施設の老朽化が著しく、収蔵庫も飽和状態のため、新たな施設整備を検討する必要があります。</p> <p>(3) 発掘した文化財等の活用を進める必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>① 信州上田ふるさと先人館の入館者数は厳しい状況にあると考えます。パネルの常設展示に加え、実物資料の展示や、学校、公民館等との協力によって、より良い取り組みになっていくことを期待します。</p> <p>② 市立博物館及び信濃国分寺資料館については、施設整備に加え、資料収集や調査研究等の博物館業務の根幹を担う人員確保の検討が必要だと考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>① 信州上田ふるさと先人館については、展示内容の充実、体験事業(コンサート)や子ども向けの講演会の開催等により魅力向上に努めるとともに、学校や公民館等へのパネルの出張展示や上田市マルチメディア情報センターと連携した情報発信等、関係機関と協力した取組を展開していきます。</p> <p>② 老朽化した施設の更新等に向けた整備計画の策定を進めるとともに、学芸員をはじめ、古文書や土器等の歴史資料を整理活用することが出来る人材の確保に努め、地域の魅力発信を担う施設として市民に親しまれる博物館・資料館となるよう取り組みます。</p>	
今後の方針等	<p>(1) 展示内容の充実、学校や公民館等との連携など、魅力の向上・発信に向けた取組を進めます。</p> <p>(2) 市立博物館及び信濃国分寺資料館は、今後策定する「上田市博物館等施設整備計画」に基づき、計画的な修繕等による長寿命化を進めるとともに、新施設の整備については、史跡整備事業と連携した取組として進めていきます。</p> <p>(3) クジラ類化石の展示に取り組みます。</p>		

令和2年度 事業評価シート

4-①

事業名	上田自由大学運動等の顕彰による生涯学習推進	担当課	生涯学習・文化財課
当初目標	市民の自発的な学習活動を今につなげ、そして未来につながるよう、令和3年度に上田自由大学100周年をメインテーマにした生涯学習シンポジウムを開催するため、大学生等を含めた実行委員会を設け取り組みます(2回以上)。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	準備委員会(プロジェクト会議)の開催(4回)		0
	生涯学習シンポジウム(上田自由大学100周年プレ大会)の実施		
	(1)シンポジウム講師謝礼		40
	(2)チラシ2,500部、ポスター110部を印刷		64
目標の達成状況	令和3年度に上田自由大学創設100周年を迎えるに当たり、プレ大会という位置付けで、自由大学の基礎を学ぶとともに、上田自由大学の研究者や精神を引き継ぐ実践者から魅力や思いを発表していただくシンポジウムを開催しました。 (会場参加者65人、リモート参加者4人 佐藤一子先生(東京大学)、山野晴雄先生(早稲田大学)ほか)		
総合評価	B		
今後の課題等	3つの社会教育運動の意義を顕彰し、自由大学運動等の自主的活動に学び、市民の自主的な学習活動を促進し、主体的なまちづくり活動につながる機会にすることが必要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	現在、自主的な学習活動、まちづくり活動に取り組む市民の励みとなるような取組になることを期待します。	
	意見に対する考え方	100年前の若者が始めた上田自由大学運動から、学びへの想いや情熱を学び、また、活動の実践者から話を聞き、学びと活動をつなげていく時間を共有することで、自主的、主体的なまちづくりや学びの活性化につなげていきます。 市内で社会教育に取り組む団体や地域活動に取り組むNPO団体、学生などに広く参加を呼びかけるとともに、市民活動の紹介(ポスターセッション)の場を設け、多くの方に活動を知っていただき、興味を持ってもらう機会にしたいと考えています。	
今後の方針等	上田自由大学100周年事業を、市民団体や学生、一般市民、社会教育関係者とともに企画し、社会教育運動の意義を顕彰することにより、まちづくりの担い手の養成につなげていきます。		

令和2年度 事業評価シート

4-②

事業名	地域とともにある学校づくりの充実	担当課	生涯学習・文化財課 学校教育課
当初目標	地域ぐるみの学校支援の推進 (1)市ホームページの充実により「学校支援の取組の見える化」を推進します。 各地域の特徴的取組等の紹介 (2)コーディネーター等のスキルアップのための研修会と人材発掘・連携につながる交流会（情報交換会）を開催します。 学校支援プロジェクト会議の企画による研修会・交流会の開催（2回）		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	リーフレットの印刷15,000部、市ホームページへ掲載	113	
	研修会の開催（1回）	15	
	研修会へ参加（2回）	0	
	ボランティア活動保険に加入（@350円 1,265人）	443	
	新型コロナウイルス感染拡大防止対策を学校経由でボランティアへ依頼	0	
	市内各地域の学校支援ボランティア活動に関する実態把握	0	
目標の達成状況	(1)学校支援ボランティアの取組について広報活動を実施 学校支援活動を紹介するリーフレットを保護者に配布しました。 ボランティア募集のためのリーフレットを作成しました。 学校の特色ある取組を市ホームページで紹介しました。 (2)学校支援プロジェクトメンバー等のスキルアップを図るため研修会等を実施 学校支援プロジェクト会議主催で、学校教育でも取り組まれるSDGsについて理解を深める研修を行いました。（参加者 24人） 県主催の学校支援ボランティア研修会に参加しました。（参加者 6人） 東信教育事務所主催の地域学校支援コーディネーター研修会に参加しました。（参加者 4人） 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校支援ボランティアの活動は制限され、積極的な情報交換会は行えませんでした。適宜学校の実態把握を行いました。		
総合評価	B		
今後の課題等	学校の実情や地域の特徴を生かしながら継続した取組となるよう、引き続き持続可能な体制を整備していく必要があります。 コロナ禍にあっても、学校と地域の連携・協働を推進するため、コーディネート機能の強化、多様な活動・継続的な活動となる必要があります。 学校・地域ごとで取組状況に差があり、ボランティア等の固定化・高齢化も深刻な状況です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	ライフスタイルの変化により、学校を支えるボランティアの担い手がなくなっていくことが想像されます。難しい課題ではあるが、有償による担い手の確保など、持続可能な体制の整備が図られることを望みます。	
	意見に対する考え方	ボランティアによる学校支援の現状を踏まえ、その強化、改善を図りながら、新しい担い手を発掘し、学校につなげるよう努めていきます。持続可能な学校支援の体制整備に向け、住民自治組織とのあり方も併せて、地域に合った支援の方法を研究していきます。	
今後の方針等	地域の教育力の再生・向上を目指し、学校と地域が連携し、地域全体で子どもたちの成長を支えていく仕組み作りを進めます。統括コーディネーターを中心に各地域において、研修会、交流・情報交換を行い、地域ぐるみで学校を支えていくような仕組みづくりを検討します。また、各学校に寄り添った支援を行っていきます。 学校支援ボランティア活動の推進のため、特色ある学校支援ボランティア活動の取組の紹介や周知を行い、新たな担い手の掘り起こしを図ります。		

令和2年度 事業評価シート

4-③

事業名	人権同和教育・啓発の推進	担当課	生涯学習・文化財課
当初目標	(1) 学校、家庭、地域、企業、職員に対する人権同和教育・啓発を推進します。 (2) 各種人権啓発推進団体による市民の人権意識向上のための事業を実施します。 講演会・研修会の開催（4回）		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	(1) 学校人権同和教育の推進		4,478
	(2) 地域人権同和教育の推進		4,326
	(3) 社会教育団体等人権同和教育の推進		278
	(4) 企業人権同和教育の推進		106
目標の達成状況	人権に関する啓発資料や啓発動画を作成し、広報うえだ・行政チャンネル・市ホームページ等による発信をしました。また、学校、自治会、企業、各種団体へチラシの回覧や掲示等を依頼しながら、人権同和教育の推進に努めました。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講演会・研修会の多くは中止となりましたが、オンラインによる企業の新入社員研修会を1回開催しました。 また、喫緊の人権課題である新型コロナウイルス感染症に関する偏見・差別防止に向けた、啓発資料や啓発動画の作成・発信、ヒューマン上田の全戸配布、シトラスリボンプロジェクトへの取組等により、市民の人権意識の向上に努めました。		
総合評価		B	
今後の課題等	新型コロナウイルス感染拡大により人々の差別意識が表面化する中、また人権課題が多様化する中、市民の人権尊重の精神が日常的に発揮できるよう有意義な研修会等を企画・実施する必要があります。感染防止対策を取りながら、効果的な教育・啓発をいかに実施していくかが重要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①多様化する人権問題において、少しずつ、確実に啓発が推進されることを望みます。 ②新型コロナウイルス感染症に関する偏見・差別に対し、素早く、さまざまな取組に着手したことを評価します。	
	意見に対する考え方	①多様化する人権問題に対して、常に情報収集に努めるとともに、市民の人権尊重の精神が日常のあらゆる場面で態度や行動として発揮されるよう、学校や家庭、地域、企業等で、引き続き人権同和教育・啓発の推進に努めていきます。 ②人権に関する正しい理解と認識を深めるための効果的な情報発信等について研究・検討し、今後も市民の人権意識の向上に努めていきます。	
今後の方針等	感染防止対策を徹底した講演会や研修会を実施するほか、ICTを活用した講演会・研修会の開催等、一人でも多くの方に参加していただける方法を検討していきます。また、広報うえだ・行政チャンネル・市ホームページでの発信も含め、あらゆる世代の方々に対応できる啓発活動を実施していきます。		

令和2年度 事業評価シート

4-④

事業名	青少年の健やかな成長を支援する取組の充実	担当課	生涯学習・文化財課
当初目標	(1) 生きる力を育む自然体験活動、集団遊び・集団生活の機会を提供します。 幼児期の子どもを主な対象とした地域の自然体験事業の実施（3回） 小中高大の青少年の異年齢交流と自然体験活動（3回） 体験活動補助金交付（60育成会） (2) インターネット・スマホの適正利用を啓発します。 啓発リーフレット発行 17,000部、出前講座及び学習会（3回） (3) 地域における若者の居場所づくりの調査・研究をします。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	(1) 幼児期の子どもを主な対象とした地域の自然体験事業		175
	子ども会育成連絡協議会との連携による自然体験活動の促進		282
	(2) インターネット・スマホ適正利用啓発リーフレット作成・配布		158
(3) 研修会の開催と関係機関への訪問・懇談		0	
目標の達成状況	(1) 幼児期の子どもを主な対象とした地域の自然体験事業を実施しました。 「親子で山さんぽ - 太郎山を遊ぼう!!」(太郎山) 未就学児5人、小学生6人 「親子でちょこっとゆったり焚火あそび」(山口地域) 小学生18人 子ども会育成連絡協議会との連携による自然体験活動を実施しました。 「のびのび川遊び体験教室 - 浦野川で遊ぼう! 学ぼう!」(浦野川ほか) 未就学児3人、小学生14人、中学生9人 「冬の自然体験教室」(菅平高原) 小学生6人 体験活動支援事業補助金の交付 12育成会 (2) インターネット・スマホ適正利用啓発リーフレットを作成・配布しました。 7月 4,000部発行。地域啓発として分館経由で自治会回覧 2月 20,000部発行。市内小中学校全児童生徒へ配布 (3) 研修会を開催し、関係機関への訪問・懇談を実施しました。 長野県生涯学習推進センター共催「子どもの自殺の現状と課題」研修開催 不登校の子どもの居場所を訪問し、保護者と懇談		
総合評価		B	
今後の課題等	外遊びをする子どもたちが減少傾向にあるといわれる中、就学前や低学年の子を持つ保護者に体験活動の重要性を知ってもらう必要があります。 自然体験事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で計画どおり実施できない事業がありましたが、人数を制限するなど、開催方法を工夫しながら進める必要があります。 インターネット・スマホの適正利用については、学校、保護者、地域と連携を進めることが求められています。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	児童生徒に1人1台の端末機器が整備されたことを踏まえ、学校でのインターネット教育の状況を把握しながら、インターネット・スマホの適正利用を啓発していくことが必要だと考えます。また、端末機器の整備に伴い、保護者への啓発が今まで以上に大切になると考えます。	
意見に対する考え方	情報リテラシー教育について、学校の授業の充実を図るとともに、保護者や地域の大人に向けては、PTAや地域を対象とした青少年育成講演会等を充実させ、学校、保護者、地域と連携をしながら取り組んでいきます。 啓発リーフレットの作成は、児童生徒の利用実態、家庭等でのルールづくりのガイドライン、ルール運用の取組事例等の紹介を通して、適正利用に向けた子どもと大人の対話を促す取組となるよう進めていきます。		
今後の方針等	就学前や低学年の親子向けの自然体験プログラムを実施し、体験活動の重要性を学ぶ機会を作ります。 自治会単位の育成会が体験活動に取り組むことができるように支援を進めていきます。 インターネット・スマホの適正利用については、学校、保護者、地域の学習会を一層進め、連携の意識醸成を行います。また、未就学児の適正利用に取り組む健康こども未来部との情報交換を進めます。		

令和2年度 事業評価シート

4-⑤

事業名	公民館事業の充実	担当課	中央公民館 生涯学習・文化財課
当初目標	(1)各館の高齢者向け事業を充実します。 (2)各館の青少年向け事業の拡充をします。 (3)公民館だよりとホームページに関する職員研修会の開催（年2回）及びSNSによる情報発信の強化（6館以上）に取り組みます。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	「ことぶき大学院」をはじめとする高齢者事業の実施（77講座、参加者942人）	699	
	「ことぶき大学」、「丸子春秋学園」を、公開講座としてテレビ放映	上記に含む	
	「城南地区わいわい会議」（参加者68人）をオンラインにより開催したほか、自然観察会等（7講座、参加者309人）を一部公民館で実施	784	
	一部分館において、メディアリテラシーに関する少人数による読み合わせを行う等、コロナ禍で効果的な学習ができるような取組を実施	上記に含む	
	講演会「児童自由画運動の広がりとその後」（11/15 参加者27人）、101周年児童自由画展（神川地区公民館：11/14～15 来場者42人、中央公民館12/5～12/25 来場者469人）の開催	15	
	職員向けYouTube講習会（2回）、Zoomを使った研修会（3回）の開催	0	
	全公民館で、Facebookによる公民館情報の発信を開始	0	
目標の達成状況	年度前半では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2か月間の休館とし、また多くのイベント・講座を中止としました。 年度後半では、感染防止対策をしっかりと施した上で講座等を実施し、地域のケーブルテレビの協力を受けての公開講座の放映や、オンラインによる研修会の実施等、参加者の安全性を確保しながら、学習の機会を設けることができました。 情報発信の強化という点では、全公民館においてSNSによる情報発信を開始したほか、YouTubeを使った新たな情報発信やオンラインでの学習方法についての研究を開始するなど、大きな進展が見られました。		
総合評価	B		
今後の課題等	どのような状況下にあっても、創意工夫により、学びの機会を提供していくことが、社会教育施設である公民館に課せられた使命であり、職員一人ひとりがそのことを自覚することが求められています。 コロナ禍にあっても、全ての世代を対象とした最適な学びの機会を提供するため、今後も調査・研究を進めていくことが必要です。更には、ICT等を活用した学習にも対応できるよう、公民館の学習環境（Wi-Fi等）を整えていくことも求められています。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①幅広い世代を対象とした学びの機会の提供や、情報発信の強化を推進するため、工夫をしながらさまざまな取組を実施していることを評価します。 ②Wi-Fi環境を整えることで、公民館の更なる活用につながることを期待します。	
	意見に対する考え	①今後も引き続き、時代の流れや、社会環境の変化に対応していくため、学習方法について検討を行いながら、創意工夫を重ね、どのような状況下にあっても、市民に向け学びの機会を提供していくよう努めていきます。 ②各公民館ごとに、Wi-Fi環境の整備に向けて、施設整備の計画を立てながら取り組んでいきます。	
今後の方針等	あらゆる年代の市民が公民館で安心して学ぶことができるよう、学習方法や手段、必要となる環境整備や附属機器等について調査・研究を進めていきます。 より良い学びの場を提供するため、公民館同士の連携はもとより、図書館、博物館、美術館等の他の社会教育施設と連携し、共同で事業を行うことで、より深い学びの場の創出、コスト（講師報酬等）の削減等を実現していきます。 分館をはじめとする、地域住民や地域コミュニティにおける各種団体等とも積極的な連携を進め、まちづくり活動にも貢献していきます。		

令和2年度 事業評価シート

4-⑥

事業名	図書館サービスの充実	担当課	上田図書館 生涯学習・文化財課
当初目標	<p>「地域の身近な情報拠点として、くらしと学びに役立つ図書館」を基本理念とし、その推進のため図書館サービスの充実を図ります。</p> <p>(1) 子どもの読書活動の推進体制を構築するため、第二次上田市子ども読書活動推進計画を策定します。</p> <p>(2) 利用者のニーズ等に応えるため、職員の資質向上に努めます。</p> <p>(3) 貴重資料等の整備を行い、市民の利活用を促進します。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1) 第二次上田市子ども読書活動推進計画(素案)の審議会等からの意見聴取、パブリックコメントの実施	0	
	第二次上田市子ども読書活動推進計画の策定	0	
	(2) 各種研修会へ参加	11	
	(3) 貴重資料の整理	589	
目標の達成状況	<p>(1) 第二次上田市子ども読書活動推進計画の素案を作成し、審議会やパブリックコメント(市民意見募集手続)による意見聴取を行い、計画を策定しました。</p> <p>(2) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加を見送った研修会もありましたが、県立図書館等の主催による研修会(オンライン含む)に参加し、スキルアップに努めました。(11回、延べ78人)</p> <p>(3) 各館所蔵の未整理資料の目録作成や、資料登録等の整理を行いました。</p>		
総合評価		B	
今後の課題等	第二次上田市子ども読書活動推進計画に基づき、「家庭・地域」、「図書館」、「学校」、「幼稚園・保育園・認定こども園」と連携しながら取組を推進していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>① 学校との連携の一つである学校への図書の本送について、一部地域で回送車によらない方法で行われていることから、地域間で取組に差が出ないように推進されることを望みます。</p> <p>② 地道に研修を重ね、熱意を持って職務に当たっていることを評価します。引き続き、専門性や接遇の向上に努めていくことを望みます。</p>	
	意見に対する考え	<p>① 回送車が学校を回るのではなく、学校職員が図書館を訪れ、回送本の受け取り、返却を行っている地域があります。貸出冊数や回送の頻度など状況を把握しながら、当該地域の学校回送事業に支障が生じないように留意していきます。</p> <p>② 研修会への参加や研修内容の共有により職員の専門性を高め、利用者に対し適切なサービスの提供ができるよう努めていきます。また、気持ちよく図書館を利用してもらえよう、挨拶の励行や丁寧な対応等、接遇の向上を図っていきます。</p>	
今後の方針等	<p>第二次上田市子ども読書活動推進計画の取組項目を実現するため、関係機関と協議しながら事業を推進していきます。</p> <p>引き続き、職員の専門性及び接遇の向上に努めます。また、貴重資料等の整理を行い多くの利用者の活用につなげます。</p>		

令和2年度 事業評価シート

5-①

事業名	第二次上田市スポーツ推進計画の策定	担当課	スポーツ推進課
当初目標	市のスポーツ振興の理念と目標等を定めた「上田市スポーツ振興計画」が、令和2年度で計画期間が終了することから、令和3年度を始期とする次期計画を策定します。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	スポーツ推進審議会の開催（6回）		156
	市民アンケートの実施 回収率37.3%（559/1,500）		545
	第二次上田市スポーツ推進計画（案）のパブリックコメントの実施		0
	第二次上田市スポーツ推進計画の策定・印刷		539
目標の達成状況	<p>計画策定に当たり、市民アンケートを実施し、市民のスポーツ活動やスポーツに対する意識・考え方を把握し、整理しました。</p> <p>計画案に対するパブリックコメント（市民意見募集手続）を実施しました。</p> <p>5回の審議会と答申に基づき、第二次上田市スポーツ推進計画を策定しました。</p>		
総合評価		B	
今後の課題等	<p>今後は、第二次上田市スポーツ推進計画に掲げる施策や取組、数値目標の達成状況等を把握し、点検・評価するなど、計画の進行管理に取り組む必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①第二次上田市スポーツ推進計画策定に当たり整理した市民のスポーツに対する意識・考え方が、今後の施策や取組に反映されることを望みます。</p> <p>②今後の市の施策の推進を図るための指針となる本計画は、関係者へだけでなく、市民への周知が更に図られることを望みます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①第二次上田市スポーツ推進計画では、上田市におけるスポーツ環境の現状と課題について市民アンケートの結果を踏まえ整理し、基本理念、数値目標、具体的な施策を掲げました。今後、本計画を実効性のあるものとするために、目標や具体的施策・取組の達成状況を把握する中で、施策の点検・評価を行っていきます。</p> <p>②本計画については、市ホームページへの掲載のほか、本庁舎や各地域自治センターの情報コーナー、図書館等に閲覧用として配置するなど、広く市民に周知していきます。</p>	
今後の方針等	<p>スポーツ推進審議会への進捗状況の報告や、社会情勢、市民ニーズの的確な把握に努め、必要に応じて市民アンケートやヒアリング等を行い、事業の見直しを図ります。</p>		

令和2年度 事業評価シート

5-②

事業名	上田市スポーツ施設整備計画に基づく施設整備の推進	担当課	スポーツ推進課
当初目標	生涯スポーツ社会の実現のため、スポーツ施設の計画的な整備を進めます。 (1) 関係各課との連携による整備の推進 (2) 整備財源確保に向けた調査の実施 (3) 管理事務所ごとに定めた計画に基づく、計画的な修繕の実施		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	自然運動公園総合体育館の工事着手		246,852
	新テニスコート整備予定地の不動産鑑定業務の実施		371
	古戦場公園の費用対効果調査業務の実施		2,178
	各管理事務所において、計画に基づいた修繕の実施		11,524
目標の達成状況	令和2年度内の竣工を目指し、自然運動公園総合体育館の耐震化・大規模改修工事に着手しましたが、アスベスト除去のための追加工事が必要となったため、年度内竣工は困難となりました。 新テニスコートの整備については、整備予定地の不動産鑑定を行いました。また、古戦場公園の費用対効果調査業務を実施しました。 新テニスコート整備予定地を含めた古戦場公園が、都市計画公園として追加されました。 管理事務所ごとに作成した修繕計画に基づき、計画的な修繕を行いました。		
総合評価	B		
今後の課題等	「上田市スポーツ施設整備基本構想・整備計画」のほか、令和10年に長野県で開催される国民スポーツ大会を踏まえ、財源の確保に努めながら施設整備を進める必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	長野県で開催される国民スポーツ大会に向けた新テニスコートの整備が、スケジュールに沿って着実に進んでいくことを期待します。	
	意見に対する考え方	新テニスコートは、令和5年度の整備完了を目指し、令和3年度では用地買収、設計業務を実施します。	
今後の方針等	引き続き、上田市スポーツ施設整備計画に基づき、施設整備を進めていきます。		

令和2年度 事業評価シート

5-③

事業名	生涯スポーツ振興、競技力向上、人材育成とスポーツを支える地域づくり	担当課	スポーツ推進課	
当初目標	上田市スポーツ振興計画に基づく体力向上・健康づくり・スポーツ観戦の機会拡大のほか、競技力の向上を通じた生涯スポーツ社会の実現を目指した事業を展開します。			
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)		
	(1) 体力向上を図る各種大会等の開催（5回）	1,128		
	夢の大切さを伝える事業の実施（2校4クラス）	296		
	「みる」スポーツの機会充実（Vリーグ開催支援）（随時）	0		
	自宅でできる運動・ストレッチ紹介動画制作（2回）	0		
	(2) 競技力向上を図る全国大会等出場奨励金の交付（6件）	3,105		
目標の達成状況	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、多くの大会・スポーツ教室が中止となり、目標とする事業開催数の達成が困難となりました。このことから総合評価はCとしました。一方で感染リスクが最小限となるよう対策を講じたうえで実施可能な事業を開催しました。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、自宅で過ごす時間が増えている市民に向け、簡単な運動やストレッチの紹介動画を作成・配信し、市民の体力向上・健康増進につなげました。</p>			
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">総合評価</td> <td style="width: 85%; text-align: center;">C</td> </tr> </table>			総合評価
総合評価	C			
今後の課題等	子どもの体力や成人のスポーツ活動の実施頻度が国や県と比較して下回っていることから、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、誰もがいつまでもスポーツに親しむことができる取組が必要です。			
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①障がい者スポーツの推進は大切な取組です。既存施設では、トイレが使えない、階段があるなどの理由で、障がい者がスポーツを楽しむことができない現状があります。障がいの有無に関わらず、誰もが利用することができる施設整備を進める必要があると考えます。</p> <p>②自宅で過ごす時間が増えている市民に向けた簡単な運動やストレッチの紹介動画を新たに作成・配信したことを評価します。体力向上・健康増進につながる情報が幅広い市民に届くよう、情報発信の充実を図られることを望みます。</p>		
	意見に対する考え方	<p>①施設の整備にあたっては、障がい者の利用に十分配慮して進めていきます。</p> <p>②市民のスポーツ活動がより活性化するよう、スポーツを「する」ための情報はもとより、「みる」、「ささえる」ための各種情報を効率的に収集するとともに、多様な手段を活用し、タイムリーに発信していきます。</p>		
今後の方針等	子どもたちの運動習慣や体力づくりのきっかけとなる事業や障がい者スポーツの推進、「みる」スポーツの開催支援、スポーツ情報の幅広く効果的な方法による積極的な発信等、一人でも多くの市民がスポーツ活動への参加意欲や興味・関心を抱くよう取り組んでいきます。			